

令和4年度生徒指導サポート実践校 「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立高須小学校	校長	杉原 妙子	生徒指導主事	徳廣 邦彦
-----	-----------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『高須小学校あいさつ大使』

取組における育てたい資質・能力

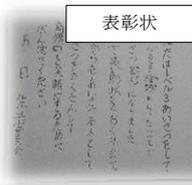
人間関係形成	社会参画	自己実現
表現力	2	主体性
		1
		自らの自信
		3

取組のねらい

児童が主体となって考えた取組を通して、挨拶を意欲的に楽しくしようとする態度を養うと共に、自分に自信をもって明るく挨拶をすることができる児童を育てる。

取組の具体的内容

<p>1 高西中学校区で決めた「あいさつレベル5」を児童に周知すると共に、各教室・廊下・階段に掲示する。</p> <p>2 児童が中心となって考えた3つの取組を行う。</p> <p>①1回目：個人での取組 ○挨拶の良い児童は児童会・生活委員会、教職員が名札にシールを貼る（それぞれシールの色を変える）。3色のシールを集めた児童を「高須小学校あいさつ名人」に任命する。任命された児童には生活委員会から賞状を配布する。</p> <p>②2回目：集団での取組 ○1回目の取組の課題から改善案を考え実行する。2回目の取組は期間中に「あいさつ名人」になった人数が多い学級には生活委員会から賞状を、学級の6割以上の児童が「あいさつ名人」になった学級には教頭から表彰状を送る。結果は放送で全校児童に伝える。</p> <p>③3回目：地域での取組 ○3回目の取組では、登下校時に挨拶が良かった児童へ地域の人から挨拶カードを配布してもらう。カードをもらった児童は「あいさつ大使」になる。このカードはランドセルに付けることができるようになっており、これからも挨拶で高須の町をつないでいく代表になることを伝える。学年の中で「あいさつ大使」になった人数が多い学級には生活委員会から賞状を、クラスの6割以上が「あいさつ大使」になった学級には児童会から表彰状を送る。結果は放送で全校児童に伝える。「あいさつ大使」になった児童には、校長から「あいさつ大使任命状」を送る。</p>	<p>取組の創意工夫 『PDCA サイクルを意識した取組』</p> <p>○児童会や生活委員会を中心に高須小学校の挨拶の課題は何か考え、取組を行う。</p> <p>○取組を行った後、教職員にアンケートを取り、良かった点や課題を記入してもらう。その結果を基に生活委員会で話し合いする、次回の改善案を立てる。</p> <p>○地域での取組を行った後、地域の方に来校していただき、取組への協力に感謝の言葉を述べると共に取組の良かった点や課題を話し合う。課題を基に次回の取組に生かす。</p>
---	---



取組の成果と課題

○取組を行う前に挨拶ができている（自己評価）児童の割合が81%だった。1回目の取組後は86%、2回目の取組後は88%と向上した。

○地域の方から「挨拶をする児童が増えてきた」という言葉をいただいた。

●取組期間は良い挨拶をする児童が増えたが、取組後継続して良い挨拶をする児童は減っていた。

●取組を行う中で目的がシールをもらうことになっている児童がいた。今後、日常的に挨拶をすることを目標にした取組を考えていく必要がある。